放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2025年　10月　　事業所名　　放課後等デイサービスSKY

		チェック項目	実数			割合
			はい	いいえ	合計	はい / いいえ
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	6	100% 0%
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	6	100% 0%
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	6	100% 0%
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	6	100% 0%
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	6	100% 0%
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0	6	100% 0%
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	6	100% 0%
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	6	100% 0%
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	0	6	100% 0%
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	6	100% 0%
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	6	100% 0%
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	6	100% 0%
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	6	100% 0%
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	6	0	6	100% 0%
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	6	100% 0%
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	6	100% 0%
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	6	100% 0%
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	6	100% 0%
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	6	100% 0%

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	6	100% 0%
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	6	100% 0%
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	6	100% 0%
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	6	100% 0%
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	6	0	6	100% 0%
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	6	100% 0%
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	6	100% 0%
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	6	100% 0%
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	6	100% 0%
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	0	6	100% 0%
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	0	6	100% 0%
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	6	0	6	100% 0%
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	0	6	100% 0%
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	0	6	100% 0%
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	6	100% 0%
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	6	100% 0%
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	6	100% 0%
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	6	100% 0%
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	6	0	6	100% 0%

保護者への説明責任等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	6	100% 0%
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6	0	6	100% 0%
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	6	100% 0%
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	6	100% 0%
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	6	100% 0%
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	6	100% 0%
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	0	6	100% 0%
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	6	100% 0%
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	6	100% 0%
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	6	100% 0%
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	6	100% 0%
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	6	100% 0%
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	6	0	6	100% 0%
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	6	100% 0%
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	6	100% 0%
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	6	100% 0%

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2025年　10月

事業所名:放課後等デイサービス虹色SKY

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	スペースは十分確保しており、そのスペースを最大限生かすように活用できるプログラムの立案しています。	**活動時間や余暇の時間によって活用方法を変えている。**
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	安心安全のため職員配置は有資格者、児童指導員はスキルの高い資格を配置している。	定期的に研修の開催や日々の業務のなかで話し合いを設け、スキルを高め合っている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	施設内は、バリアフリー化している。	活動での絵カードの使用、施設内掲示物も構造化を更に分かりやすく行う事で、過ごしやすい環境を整えていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	子ども達の特性に合わせた空間やその都度、工夫している。	発達段階によって活動を分けて取り組んでいる。支援時間までに掃除を行い心地よく過ごしてもらえるように心掛けている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	利用者の特性に合わせた場所、部屋などリラックスできるような工夫をして提供している。	不安定な気持ちや落ち着かない際は、別部屋で気持ちが落ち着けるように環境を整えている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	毎月１回の会議に全職員が出席し、目標の確認や振り返りの機会を設けている。	支援終了後に継続することや改善する点を話し合っている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	保護者にアンケートを実施し、業務の改善につなげている。アンケートの機会以外にも送迎時やモニタリングの際に、保護者からの意見や要望を踏まえ改善につなげている。	アンケートや送迎時やモニタリングの際に、保護者からの意見や要望を踏まえ改善につなげている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	話し合いの場や意見を述べる場を設け改善や継続に繋がるように取り組んでいる。	今後も、話し合いの場や意見を述べる場を設け改善や継続に繋がるように取り組んでいる。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	外部評価での結果を踏まえ改善に努めていく	外部評価での結果を踏まえ改善に努めていく
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	年間計画で研修を行いサービスの向上、職員のスキルの向上に努めている。	年間計画を立てる際、話し合いを場を設け、計画を作成している。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	ホームページにて公開している。 個別に対応したプログラムの内容を通して、より質の高いサービスを提供できるように努めている。	ホームページにて公開している。必要であれば訂正を行っている。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	初期アセスメントや定期的にモニタリングを実施し、ひとり、ひとりの特性や成長や変化を把握し、利用者・保護者から意見や希望に応じて、それを反映した個別支援計画を作成している。	定期的にモニタリング（面談）を実施し利用者の様子を共有し個別支援計画作成に努めている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	作成時期に支援会議を開催し、意見を出し合い共通理解をし職員全員で話し合いの場を設けている。	支援会議の時間だけでなく、日々の支援前、終わりに話し合いの場を設けている。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	支援計画を職員間で適切に共有し、Ｉ本化のある支援が提供できるよう、定期的に話し合いを設けている。	支援会議の時間だけでなく、日々の支援前、終わりに話し合いの場を設けている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	標準化されたツールや５領域を踏まえたアセスメントを実施しております。これにより、利用者の特性や発達段階やニーズを客観的に評価し、個別の支援計画に反映させている。	特性に合わせ、片付けの時間や活動時間・内容によって楽しんだり、メリハリが付けるように音楽を活用して取り組んでいる。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	利用者の多様なニーズに応えるため、５領域を重点を置いた支援計画を提案しております。これにより日常生活で必要なスキルを身につけ、豊かな成長を促進しております。さらに、「家族支援・移行支援・地域支援・地域連携」に力を入れ、地域と繋がりを大切にしながら、子どもたちがスムーズに次のステップへ進めるような移行支援、そして、家族全体をサポートするための取り組みを行っている	ガイドラインの内容を常に職員が再確認できるように周知したい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	定期的に話し合いを設けてプログラムを作成している。	マンネリ化を防ぐために新しい試みを取り入れている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	活動の内容が固定されることなく、毎日のプログラムは柔軟に変更されている。同じテーマや大題名を持つ活動であっても、利用者が興味やニーズに応じて内容やアプローチを変えることで、常に楽しい体験を提供している。	マンネリ化を防ぐために新しい試みを取り入れている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	個別のニーズに応じた個別支援、集団活動を通して楽しみながら協調性や社会生が身に付けられるように支援を行っている。	集団活動を通して楽しみながら協調性や社会生が身に付けられるように見直しを定期的に行っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	支援時間終了時、話し合いながら振り返りや改善する点を話し合っている。	支援時間終了時、話し合いながら振り返りや改善する点を話し合っている。

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	スペースは十分確保しており、そのスペースを最大限生かすように活用できるプログラムの立案しています。	**活動時間や余暇の時間によって活用方法を変えている。**
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	支援時間終了時、話し合いながら振り返りや改善する点を話し合っている。	支援時間終了時、話し合いながら振り返りや改善する点を話し合っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	支援時間終了時、話し合いながら支援記録を記入している。	支援時間終了時、話し合いながら支援記録を記入し次回に支援つなげている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	６ヶ月に１回モニタリングを実施している。	６ヶ月に１回モニタリングを実施している。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	ガイドラインを用いて、楽しめるような活動や支援を行っている。	ガイドラインを用いて、楽しめるような活動や発達に合わせ支援が出来るように工夫を行っている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	子どもたちで自己選択出来るように話し合いをし支援の内容を工夫している。	子どもたちで自己選択出来るように話し合いをし支援の内容を工夫している。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	必要に応じて参加をしている。	必要に応じて参加をしている。また、積極的に参加したい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	必要に応じて関係機関と話し合いの場を設け連携を図っている。	機会を増やす必要がある。今後は連携を増やしていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	送迎の際に先生と話をし情報交換や共有を行っている。	送迎の際に先生と話をし情報交換や共有を行っている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	話し合い場を設けて情報交換を行っている。	早い時期から話し合い場を設けて情報交換を行っている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	担当者会議で情報共有すること。また随時の問い合わがあった場合には、保護者の了承を得て提供している。	担当者会議で情報共有すること。また随時の問い合わがあった場合には、保護者の了承を得て提供している。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	必要に応じて、研修や助言を受けている。	必要に応じて、研修や助言を受けている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	イベントを通して交流する機会を設けたり、清掃活動を通して地域の方々と交流をしている。	イベントを通して交流する機会を設けたり、清掃活動を通して地域の方々と交流をしている。機会が少ないため、機会を増やせるように工夫をしていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	開催された際は積極的に参加します。	情報収集を行い開催される際は積極的に参加する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	送迎の際に様子をお伝えしたり、電話やメール、連絡帳を活用するなどして共通理解をしている。	送迎の際に様子をお伝えしたり、電話やメール、連絡帳を活用するなどして共通理解をしている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	送迎時やモニタリング時期など話を聞き情報提供や助言をしている。	送迎時やモニタリング時期など話を聞き情報提供や助言をしている。
保護者への説明責任等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	契約して説明を行っている。	契約して説明を行っている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	利用者や保護者の意思を尊重、家族の意向をモニタリング時期や送迎時に機会を設けている。	利用者や保護者の意思を尊重、家族の意向をモニタリング時期や送迎時に機会を設けている。また、職員間で話し合いを設け作成している。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	モニタリング時に説明をして同意を得ている。	モニタリング時に説明をして同意を得ている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	送迎時やモニタリングなど悩みを聞く機会を随時設けている。	送迎時やモニタリングなど悩みを聞く機会を随時設けている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	保護者が集まって話をしたりする場を年数回提供している。	定期的に話し合いの場を提供出来るように工夫をしていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	苦情解決委員を選任しています。苦情等については、真摯に受け止め、迅速かつ適切に対応している。	苦情解決委員を選任しています。苦情等については、真摯に受け止め、迅速かつ適切に対応している。

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	スペースは十分確保しており、そのスペースを最大限生かすように活用できるプログラムの立案しています。	**活動時間や余暇の時間によって活用方法を変えている。**
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	毎月のかわら版の発行やホームページにて公開している。また、毎日様子をブログにアップしている。	毎月のかわら版の発行やホームページにて公開している。また、毎日様子をブログにアップしている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	個人情報について研修を行い、啓発に努めている。	個人情報について研修を行い、啓発に努めている。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	定期的に話し合いを設けてプログラムを作成している。	定期的に話し合いを設けてプログラムを作成している。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	事業所の行事に招待等は行っていませんが各施設ごとに行事を施行したり、地域資源を活用したりして実地している。	利用者や保護者の皆さんが楽しめるようなイベントを考え、開催したい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	各種マニュアルを作成し、いつでも確認が出来るようになっている。	定期的にマニュアルの見直しを検討する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	様々な災害のケースを想定して、訓練を実施している。（年に２回消防署への申請している。）	様々な災害のケースを想定して、訓練を実施している。（年に２回消防署への申請している。）
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	当社の運営する施設においては、投薬等の医療行為をいたしておりませんので、家族の協力のもと、安全で適切な支援を提供しております。また契約時には、サービス利用あたり。家族としっかりと連携を図り、契約時十分な説明を行った上で理解・同意のサインをいただいている。	状況や状態が変化することもあるため、定期的に話を聞き対応していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	当社では、食物アレルギーに対する個別対応は行っておりません。そのため、サービスを利用する際には、家族にアレルギーのリスクについて十分に説明し、契約時に理解・同意のサインをいただいている。	状況や状態が変化することもあるため、定期的に話を聞き対応していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	計画的に委員会を開き安全管理や必要な研修や訓練を行っている。 全事業所と共有している。	様々な災害のケースを想定して、訓練を行う事で災害発生時にも適切に対応が出来るようにしている。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	利用者の安全を確保するために、家族との連絡を大切にしている。家族の電話番号に加えて施設専用の携帯番号も用意している。これにより、家族との連絡が可能であり、迅速な情報共有が行える体制を整えています。（個人情報は十分に留意している）	利用者の安全を確保するために、家族との連絡を大切にしている。家族の電話番号に加えて施設専用の携帯番号も用意している。これにより、家族との連絡が可能であり、迅速な情報共有が行える体制を整えています。（個人情報は
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	小さなことにも、気づきが出来るように日々の支援の中で起きたヒヤリハットを記入し、情報共有をしている。	小さなことにも、気づきが出来るように日々の支援の中で起きたヒヤリハットを記入し、情報共有をしている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	虐待防止研修を必修研修とし新人職員から中堅、管理者まで徹底して行っている。	必要に応じて内容や回数を増やす。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	当社では、切迫性、非代替性、一時性を伴う場合以外は行いません。（利用者の尊厳を守りながら、安全な環境を提供することを最優先に考え、最善の支援を提供しております）	切迫性、非代替性、一時性を伴う場合以外は行いません。（利用者の尊厳を守りながら、安全な環境を提供することを最優先に考え、最善の支援を提供しております）